

盲ろう者として生きて

指点字によるコミュニケーションの復活と再生

福島 智 【著】

定価2,940円(本体2,800円+税)

◎A5判／上製／520頁

◎ISBN978-4-7503-3433-2

【推薦します!】

谷川 俊太郎 (詩人)

言葉は私たちの目や耳ではなく、
魂にこそ従属しているものだと、
福島さんは文字通り身をもって立証する。
その生き生きとドラマティックな過程は、
そのまま今の言語状況に対する批評となっている。

【目次】

第I部 盲ろう者研究と本書の性格

第1章 「盲ろう者」という存在と先行研究の概況

第2章 本研究の目的と方法

第II部 福島智における視覚・聴覚の喪失と「指点字」を用いたコミュニケーション再構築の過程

第3章 失明に至るまで

第4章 失明から失聴へ

第5章 失聴へ

第6章 聴力低下と内面への沈潜

第7章 「指点字」の考案

第8章 学校復帰——指点字を中心とした生活の始まり

第9章 再び絶望の状態へ——集団の中での孤独な自己の発見

第10章 再生

——指点字通訳によるコミュニケーションの再構築

第III部 分析と考察

第11章 文脈的理解の喪失と再構築の過程

第12章 根元的な孤独とそれと同じくらい強い
他者への憧れの共存

幼くして視覚を、ついで聴覚を喪失し、深い失意と孤独の中に沈んでいた著者が「指点字」という手段によって他者とのコミュニケーションを回復し、再生するに至るまでを綿密に分析した自伝的論文。人間にとって他者とのつながりがいかに大切かが分かる本。

【著者略歴】

福島 智 (ふくしま・さとし)

1962年生まれ、3歳で右目を、9歳で左目を失明する。18歳のときに失聴し、全盲ろうとなる。東京都立大学(現・首都大学東京)大学院人文科学研究科教育学を専攻し博士課程単位を取得、盲ろう者としては日本初の大学研究者となる。現在は東京大学先端科学技術研究センター教授として障害学、バリアフリーの研究を精力的に進めている。また、社会福祉法人全国盲ろう者協会理事、NPO東京盲ろう者友の会顧問を務め、世界盲ろう者連盟アジア地域代表として、2003年には‘Asian Heroes’の一人としてTIME誌に紹介された。

明石書店 〒101-0021 東京都千代田区外神田6-9-5 TEL03-5818-1171 FAX03-5818-1174

番線印

盲ろう者として生きて

指点字によるコミュニケーションの復活と再生

定価2,940円(本体2,800円+税)

ISBN978-4-7503-3433-2

8月2日
配本

明石書店

TEL 03-5818-1171
FAX 03-5818-1174

冊